シンポジウム

広島県小学校教員養成の課題と展望

【シンポジウム】

シンポジスト

岡本　徹　（広島修道大学人文学部教育学科教授）

川西　正行（広島文教女子大学人間科学部初等教育学科教授）

徳永　隆治（安田女子大学教育学部児童教育学科教授）

司会・進行

久保　研二（島根大学大学院教育学研究科教育実践開発専攻准教授）

米沢　崇　（広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座准教授）

実施日：平成 30 年 1 月 7 日（日）　14：10 ～ 16：50
場　所：広島大学東千田キャンパス 東千田総合校舎

Ⅰ　シンポジウムの趣旨

現在，各都道府県の実情・特色に応じた教員の養成・採用・研修が求められており，そのことに向けた一体的な改革が進んでいる。このような改革の中で，教員養成を行っている各大学が果たす役割は，より重要なものになってきている。さらに，同じ都道府県内にある大学間での教員養成に関する連携・協働も求められてきている状況である。

そのような背景のもと，本シンポジウムの趣旨は，「広島県小学校教員養成の課題と展望」というテーマにあるように，広島県における小学校教員養成の在り方についてディスカッションを行っていくことである。そのためには，まず，広島県内の大学において，どのような小学校教員養成が行われているのかを理解していく必要がある。そこで，広島県下で小学校教員養成を行っている，安田女子大学，広島修道大学，広島文教女子大学の先生方より各大学における小学校教員養成の現状を発表していただく。その後，それら３名の先生方の発表，ならびに教員育成指標の作成や教職課程コアカリキュラムに基づく大学のカリキュラム再編といった小学校教員養成をめぐる全国的改革動向なども踏まえたうえで，発表者ならびにフロアの方々とディスカッションを行っていく。今後の広島県の小学校教員養成を考え，連携・協働していくにあたって，このシンポジウムがそのきっかけになると考えている。

Ⅱ　広島県内私立大学における小学校教員養成の現状

１．安田女子大学（徳永隆治氏）

徳永氏からは，安田女子大学が育成を目指す教員像として，幅広い教養と専門性を持ち，自ら課題を見つけ，解決に取り組み，そして優しさをもって人と関わっていくことができる教員といった，育成が期待される多様な能力が示された。そのような教員の育成を可能にするための取り組みとして，４年間を通して学級担任（チューター）による「まほろば教養ゼミ」を実施し，緊密な関係の中で教職への意識を高めていくことや広島市教育委員会との協定による小学校等支援活動や，学生

の自主的な学校ボランティア活動など，教育実践の場に関わりながら学ぶ体制を作っていることが紹介された。このように充実した教育と体験の場を用意しているが，一方でカリキュラムが非常にタイトになり，学生が時間的な余裕を持ちづらいという課題がある現状も示された。

２．広島修道大学（岡本徹氏）

広島修道大学の特色ある教員養成の取り組みの１つとして，隣接する校種の２つの免許状を取得することを推奨し，それらの４年間での取得をカリキュラム上，保証していることが紹介された。幼児理解ができている小学校教員，児童理解ができている幼稚園教育・保育士の育成等，発達や学びの過程や連続性を踏まえた教員となることができるよう，教育の体制を敷いていることが示された。また，今日的課題である特別支援教育分野に貢献できる人材の育成も目指し，特別支援学校免許を取得する学生のみならず，すべての教職をめざす学生が特別支援について学んだ上で教職に就けるようカリキュラムが組まれている。その他にも，広島市，廿日市市，呉市と協定や協力関係を結び，学生が学校支援活動に参加できるよう体制を整えていることや，学生自身が教員採用試験に向けて自律的かつ協働的に学び合えるような科目を設置していることなど，成果を上げている取組が紹介された。

３．広島文教女子大学（川西正行氏）

川西氏からは，卒業時に目指す姿として，「実践力」「自律性」「コミュニケーション力」「専門的な知識・技能の活用力」「育心・育人」の５つの力を備えた学生の育成という目標が示された。そのための教育課程として特に特色のある実践として初年次から専門教育科目を導入し，教職への動機づけを高める工夫を行っていることや，英語活用力の育成，ICT 機器の活用などにも力を入れていることが紹介された。中でも，広島文教女子大学の大きな特色と思われたのが，学生自身が主体となって，仲間と共に，様々な活動の企画，運営を行っていることである。行事ごとに学生が組織をつくり，自ら運営を行っていくことを通して，組織の中での動き方を学び，その結果，自律性，コミュニケーション能力，実践力などのディプロマポリシーに示された力の育成につながっている様子が伺えた。また，最後に川西氏からは，広い視野を持ち，常に成長し続ける人たることが教員には求められ，物事を深く考えることができる学生の育成の重要性が指摘された。

いずれの大学においても，大学で学べる知識・技能を改めて意味付け，価値づける機会となるような体験的な学びの場を提供していること，学生自身が主体となって取り組む体験的な場があることなどの共通点が多く示された。一方，カリキュラムがタイトであることや，ボランティアなどに参加するための十分な時間がとりにくいといった現状の課題も示された。

Ⅲ　まとめ

今回，発表いただいた内容やフロアとのディスカッションを通して，各大学で行われている小学校教員養成には，様々な共通点と同時に，各大学独自の取り組みがあることが分かった。具体的な共通点としては，特に育てたい学生の資質・能力に関して，小学校教員としての専門的知識・技能の獲得や，コミュニケーション能力，ICT 活用能力といった部分で見て取ることができた。このような状況から，広島県における教員育成指標は，重要な位置づけになってくると考える。また，これらの資質・能力を育成していくために，学校等の支援活動などを実施し，実際の学校現場において実践的指導力の養成を行っているところにも共通性が見られた。さらに，教員採用試験に向けて，様々な対策を実施しているところにも共通点が見られた。

大学独自の取り組みとしては，各大学の教育理念に基づく重点化や，隣接校種での複数免許取得の推奨などが見られた。このように各大学が小学校教員養成において独自性を発揮していくことは，重要なことである。しかし，広島県・広島市にお

ける教員育成指標の作成や，教職課程コアカリキュラムといった教員養成におけるスタンダードやカリキュラムの共通化が進む中で，このような独自性をどのようにして維持・発展させていくかは今後の課題である。

また，フロアとのディスカッションのなかで，教師塾といった教育委員会等の行政が行っている教員養成と大学での教員養成との違いや共通性に考えていくことの重要性についても指摘された。大学での教員養成と，行政機関が行う教員養成の役割分担を明確にしていくとともに，しっかりと連携していくことが必要である。

さらに，新しく小学校に設定された「外国語」教育の指導に関してや，外国人児童の増加（特に，英語以外を母国語とする外国人児童）への指導といった，グローバル化への対応についても議論に上がった。そのほか，新しい学習指導要領が告示され，主体的・対話的で深い学びやカリキュラム・マネジメント，プログラミング教育といったことへの対応についてもディスカッションのなかで話題にのぼった。このように数多くのことに対応していかなければならない状況にあり，各大学とも対応に苦慮しているのが現状である。そのため，各大学がこれらの課題にどのように取り組んでいくのか，あるいはこのような課題に対応できる教員をどのように養成していくのかを情報共有できたことは意義深いことであると考える。

本シンポジウムを通して，今回のように広島県，あるいは日本の中で教員養成を考えていくうえで，学校，教育委員会，そして大学がいかに教育を担っていくのかということを議論しながら考えていくことが，今，改めて，求められている。それぞれの立場でできること，あるいは連携・協働しながら進めていくべきこと，そういったことを考えていくということが重要である。そのような中で，いくらか上述してきたが，教員育成指標をどのように設定し，教員養成にどう位置づけていくのか，さらにそれをいかに実働的なものにしていくのかということが大切になるのではないだろうか。

（文責：久保　研二・松宮奈賀子・米沢　崇）